

# 「神に称賛される私たちの生き方」

～喜んで信仰に立ち、祈りによって決断する～

ピリピ 1:2～11

使徒の働き 16:12～40

## ■ 夢【フロイト】

目が覚めた時に、リアルに感情が動くような体験を、あなたもしたことがあるのではないのでしょうか。「夢」について、何年もかけて沢山の研究が進められてきました。精神分析学の創始者であるフロイトは次のような事を述べています。「本人が夢を見るか見ないか？でどんなことが変わるのか？それは言い間違いや自分がしてはいけない事をしないように自制している人に於いては夢を多く見る人の方が抑制できる。」というのです。フロイトはまた、「意識は氷山の一角」とあり、人間の行動にはすべて心理的な裏付けがあり、それは「無意識」だとしました。私たちの発言・行動の多くは、意識的でも、無意識の影響が大きいというものです。この様にしてフロイトは人間の無意識が顕著に現れる「夢」に着目しました。

この「夢」というのは、寝ている間に見る「夢」だけではなく、私達が「こうだったらいいのになあ。」と非現実な思いも持つ事も含まれます。この無意識な領域を「夢」によって整理することで、言い間違いや、自らの弱点について自制できると言うのです。夢を見ることで無意識という環境を整理して、無意識が整うことによってその人の衝動が安定します。これは一つの仮説ですが、旧約聖書の中でも、夢の定義が確立されています。(箴 29:18)『幻がなければ、民はほしいままにふるまう。しかし律法を守る者は幸いである。』私達が、神様の前に出て夢をしっかり整理し、良い夢を前向きに行動にうつせれば、私達の生活は安定します。もし私達が、悪い夢や心に抱く非現実な不安な思いなどプラスに整理でき、良いものと悪いものを見分ける事が出来たならば、私達の日々は安定することは明白です。

## ■ 夢【ユング】

また心理学者のユングによると、夢は記憶や願望といった「個人的無意識」と、自分でも気づいていない「集合的無意識」のイメージが組み合わさって出来ていると言っています。「個人的無意識」とは、自分自身が受け入れがたい不愉快な記憶や気持ちなどを抑え込んだり、忘れたりして、無意識の奥深くに閉じ込めたものです。「集合的無意識」とは、すべての人が普遍的に感じていることとしてユングが作った用語です。民族や国家、人種を超えた全人類に共通して存在する無意識とされています。

## ■ 神様が見させて下さる「夢」

神様は夢や幻を見させて、確信や勇気、進むべき自身を与えてくれます。だから夢を見極めなければいけません。見極める方法としては、自分の中に不安、恐れ、怒りがあるなら、記憶を左右された可能性があります。逆に、知識や、知識を与えられる前向きな夢であれば神様が私達に与えて下さったのだと思います。平安か、不安か、もし私達が不安になっているなら、不安になることで扉が開かれる。私達が入口です。旧約聖書をみれば、私達は破れをふさぐものだと書かれています。もし、夢をみることで不安になるなら、それはまさしく、破れ口が開かれた状態です。『わたしがこの国を滅ぼさないように、わたしは、この国のために、わたしの前で石垣を築き、破れ口を修理する者を彼らの間に捜し求めたが、見つからなかった。』(エゼ 22:30)しかし、その時に破れ口を知ったならばふさげばよいのです。

## ■ 喜んで信仰に立ち祈りより行動する

パウロはピリピの人たちを思って祈るとき、いつも感謝と喜びに包まれていました。使徒 16 章 12 節から 40 節にパウロの伝道旅行でピリピを訪れた時の事が記されています。そこでパウロたちは古いの霊に取り憑かれた女奴隷につきまとわれたので、困り果てて「イエス・キリストの名によって命じろ。この女から出て行け。」と言ったところ、即座に例が出ていったと記されています。この事が原因でパウロたちは訴えられ、鞭で打たれ、足かせをはめられて牢獄に入れられました。このようにピリピで酷い目に遭ったパウロたちでしたが、喜んで信仰に立ち、祈りにより行動すると私達のミスが極端に少なくなります。喜べない時に喜ぶこの決断は非常に私達にとっては難しいです。喜びとは真逆の出来事について神様は、喜びなさいと言われていています。それは必ず私達の人生が良くなるからです。ピリピでパウロが言いたいことは、信じて見極めること私達がだれかにこの事を与えることです。パウロの生きる指針は絶えず感謝することでした。『私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝して

います。』(ピリピ 1:3～5)

パウロにとってピリピは愛する人達だったことが良くわかります。それはなぜかというとしようとする努力していた信徒がいたということです。喜びをもって祈りマイナスな出来事が起こってもすべて神様の福音です。パウロにとって投獄は痛みでしたが、その投獄によって最初にローマの兵士が救われました。

## ■ イエスキリストの日が来るまでに完成させてくださる。

『あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。』ピリピ 1:6

これが、今日のテーマのポイントとなる御言葉です。私達にとっては喜びのメッセージです。喜んで祈りと感謝をささげる人達と共に、神様によって初められたことが、キリスト・イエスがくるまでに絶対に完成する。(complete!!) これがあるからどんな境遇でも大丈夫なのです。喜んで信仰に立って祈りによって行動することが出来る。私達の目の前に何が起ころうともどんなに苦しい状況でも、喜びなさいと言われていています。『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。これがキリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。』I テサロニケ 5:16～18

このように必ず喜んで祈って信じて行動しましょう。(ピリピ 1:7～11) 信じて行動した使徒の箇所からみても彼らは一緒に祈っていたと書かれています。そうすれば、共に歩んで愛して慕っておられる神様が証をして下さるのです。そして愛と真の知識とあらゆる認識力によって私達が見分ける力を持つとも言われています。私達が神様から受けた夢を想像しながらマイナスで描いた知識では見分けられることが出来ません。神様が与えてくださった志、夢に立った時、私達には、すばらしい将来があります。そして聖書に書いてあるすべての人に福音が宣べ伝えられる、だからこそ真の知識を持たなければいけません。神様の真の知識は、すべての人に福音を宣べ伝えて、神様によって救われることです。その中で私達は見分ける事これができないと意味がありません。今、話しているのは、神によって見分ける。それによって神様がせよと言っていることなのか？悪魔の使いによって刻印を押されることなのか？見極めが大切です。もう終わりの時代の間です。私達が真の知識を持ち見極めることが出来る理由は、喜び、賛美することです。私達の心がとらわれるとうまくいきません。神様の前に出て歌って祈っていると問題が起きた時に揺れます。こういう状況が起きて初めて奇蹟が私達に起こります。要はイエスキリストに裁かれない人生を生きましょう。

『いつも主にあつて喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。』ピリピ 4:4～7

私達はどんなことがあってもイエスキリストによって守られます。イエスキリストが終わりの日に称賛して下さいますし、すべてを完成させて下さいます。だから私達が目を向けなければならないのはどんな状況にあってもイエスキリストです。どんな時にもイエスキリストに目を向けるならば私達の計画はすべて完成するのです。

## 最後に…

夢は整理するものです。幻と夢は、エレミヤで書かれた神様の約束です。神の立てている計画は、災いを与える計画ではなく、将来と希望を与えるものである。

『見よ、わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。』イザヤ 43:19

どのような閉ざされた状況にあっても、八方ふさがりであっても、天は開かれています。私達は喜べない状況に陥るとイエスキリストに目を向ける事が出来なくなります。しかし、どんな状況でも信じ祈り行動し、神様が与えてくださっている計画を成し遂げていきたいと思えます。信仰によらない行動はせず、主の力によって守られた私達からあなたの愛を流すことができますように。

(要約者: 岡本英樹)

(2021年9月12日)